

淡海の川づくり検討委員会 議事概要 (滋賀県河川整備計画検討委員会)

日 時：平成 27 年 6 月 22 日（月） 9:00～11:43

場 所：滋賀県大津合同庁舎 7－B 会議室

出席者：淡海の川づくり検討委員会

中川委員長、立川委員、丸山委員

事務局

滋賀県流域政策局 流域治水政策室、河川・港湾室、水源地域対策室、
高島土木事務所、大津土木事務所、長浜土木事務所、長浜土木事務所木之本支所、
北川水源地域振興事務所

傍聴者：一般傍聴者 2 名、県機関関係者

議事内容：1. 淀川水系・北川水系湖西圏域河川整備計画（原案）について
2. 滋賀県の河川整備計画における水環境確保のあり方について

概 要：滋賀県河川整備計画検討委員会規則第 2 条により、立川委員を副委員長に選出しました。

「淀川水系・北川水系湖西圏域河川整備計画（原案）」と「滋賀県の河川整備における水環境確保のあり方」について説明し、委員会から答申（意見の骨子）をいただきました。

※以下、「滋賀県の河川整備における水環境確保のあり方」に関する議事録を抜粋して掲載

■滋賀県の河川整備計画における水環境確保のあり方について

委 員：P8 に予測モデル式がありますが、水面は何で決まるのですか。

事務局：今回は現地調査に基づいた水面と判定された平均地盤高を「水面」としました。基準となる水位と地盤高との比高差を示した説明変数です。

委 員：X4 とは何を示しているのですか。

事務局：河道測線ごとに、下流から順番に数字を与えて、縦断区分としました。

委 員：この統計モデルを全県に適用するときに、各河川にデータはあるのですか。

事務局：瀬切れが起きている他の天井川について、河床高・地盤高は LP データを使用することができます。流量データがない河川については、流量観測し、データを蓄積することから始めていく必要があると考えています。

委 員：河床材料、透水性等の物理特性などモデル変数が川によって違うと思いますが、川ごとにモデルを作っていくのですか。

事務局：そうです。

委 員：流量ゼロという極端な状況ありきではなく、維持流量確保を努力した上で、それでも流量ゼロになってしまう時期もあるので、このようなモデルを適用するのではないのですか。

事務局：頭首工地点下流では、流量ゼロの時もあります。流量ゼロを良しとしている訳ではなく、河川流量の確保に向けて利水者と協議していきます。河川流量の確保とともに河道形状の工夫にも取り組んでいくということが今回の提案です。

委 員：手引きを見る限りでは、最終的に天井川をどのようにしたいのか分かりません。ま

た、P11ではアユだけに偏重した生き物への考慮の記載がありますが、遡上したアユの数は必ずしも河川環境の指標とはならないのです。県では「アユだけいけばいい川」を目指しているのですか。

事務局：天井川を改修していきたいという思いはあり、防災上は切り下げたいのですが、交通、土地利用、地下水位、地盤沈下、琵琶湖からの外来魚の遡上などの問題があり、総合的に考えていきます。

事務局：参考資料2-1に示すように、アユが他の魚類と比較して耐候性に弱いため代表魚種として選定しました。

委員：琵琶湖水系のアユは遡上してすぐに河川下流で捕られて終わりなので、河川の連続性や瀬切れといった環境指標としてはすぐいけません。環境指標とするなら他の魚種も網羅的に整理することが必要です。滋賀県では環境よりも産業的（水産）価値からアユを選定したとする検討経緯もあるので、表現の再整理が必要です。

事務局：表現を再考します。

委員：参考資料1-11のモデル検証について、流量規模毎の正解率も入れられないでしょうか。

事務局：流量規模毎のモデル検証結果を追加します。

委員：予測モデルの水面出現確率 p について、詳しく説明をお願いします。

事務局：後日、整理して詳細を説明します。

委員：基本的にはこの考え方で他の河川にも適用可能と考えます。

委員：新しい手引きを作成して前に進めようというのは良いと思います。

委員：今回提案した考え方については、いくつかの代表的な河川で検証した上で、滋賀県内の天井川への適用を図ってください。

○欠席委員からの意見紹介

事務局：まず1点目ですが、今回構築した予測モデルの変数の中で「流量」が一番水面の出現に影響があるとされている中で、今後の時代の変化を踏まえて利水者との調整を図っていくべきであるとのことをご意見を頂いています。

ご指摘のとおりであり、滋賀県としても当面の河川整備計画段階では「河道形状の工夫」を優先して取り組めますが、「流量」についても、今後の社会情勢等の変化も踏まえながら、利水者を含む関係者と問題意識の共有化を図った上で対応していきたいと考えています。

2点目ですが、高時川頭首工で取水された水は再び高時川に戻ってくるのか、というご質問を頂いています。

これについては、頭首工で取水された水は水田に供給された後、他の河川を経由して琵琶湖へ流入しますので、高時川へ戻ることは無いとの回答をしています。

3点目ですが、今回構築した予測モデルで「河床低下による水面の形成しやすさ」を推定する過程で、頭首工からの流量をゼロトンとしていますが、頭首工には魚道が設置されているのに、そこから落ちる流量は何故考慮されていないのですか、という質問です。

これについては、書いているとおり、「河床低下による水面の形成しやすさ」を推定

するにあたり、瀬切れにとって一番厳しい条件、つまり頭首工で全量取水している条件での評価としていると回答しています。

以 上